

1. 背景と目的

政府は地方創生にコンパクトシティが重要であるとコンパクトシティ&ネットワーク政策を進めている。

その内容は、自家用車に頼らずに、徒歩や公共交通で生活出来る職住近接のまちの構築である。さらに、コンパクトシティ政策は環境問題や少子高齢化といった課題を解決する為にも用いられる。

しかし、日本にはコンパクトシティのモデルが圧倒的に少ないという現実がある。積極的に取り組んでいる地域を取材して、日本に合うコンパクトシティの構想を行おうと検討している。

コンパクトシティ政策を行っている地域を現地調査し、コンパクトシティが日本で普及しない理由の考察。コンパクトシティの概念が提唱されて既に40年以上経っている。コンパクトシティの概念そのものが現代の都市条件に合っているのか。中心拠点のサービスは居住者に直合しているのか。おそらく、かなりの多様なコンパクトシティ像が考えているだろうが、その多様性についても検討し、それを元に改善案や日本型のコンパクトシティを創造する。

2. 調査方法

コンパクトシティ政策を行っている富山市や青森市等に現地調査や、コンパクトシティ政策を行っている行政や企業に取材調査を行う予定。

日本型のコンパクトシティと呼ばれている、富山の商店街やロードサイドなどの調査も中心的に行う予定である。

3. 私のコンパクトシティ政策の観点

私は職の集積がコンパクトシティに重要であると考察している。コンパクトシティの調査は、職の集積をテーマにコンパクトシティ政策を研究する予定である。

なぜなら、地方に人を定住させたいのであれば、その土地に雇用がなければならぬ。その考えが今後のコンパクトシティ政策にどのように交錯するのかを吟味したい。